

# DIGITABLE 第 38 回勉強会レポート

2010 年 9 月 18 日 於：森下文化センター 第一研修室



“軽井沢合宿の思い出” (部分) 高木大輔講師作品

デジタルフォト基礎講座 5 「レイヤーと調整レイヤー」：高木大輔 講師  
参加者全員による “ライトニングトーク Vol.5” (持ち時間 5 分のショートトーク)  
Photoshop 研究講座 「フォトマージ (高画素への挑戦)」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

## デジタルフォト基礎講座 5 「レイヤーと調整レイヤー」：高木大輔 講師

(Photoshop Elements を使って解説)

### レイヤーと調整レイヤー

「レイヤー」とは透明なシートのような Photoshop 系独自の機能だ。レイヤー上の画面は「透明なシートに描かれている」状態なので、複数のレイヤーを重ねると「アニメのセル画」のように 1 枚の合成画像として表示される。

また、レイヤーの上下関係を入れ替えると、表示画像の前後を入れ替えることができます。

レイヤーは単純に切り抜いて重ねるだけではなく、さまざまな画像を重ねる効果が選べ、またその透け具合が「不透明度」の%で調整することが出来る。右に代表的なレイヤーの効果を掲載するが、それらの機能を利用して露出や色調の調整にも応用できる。



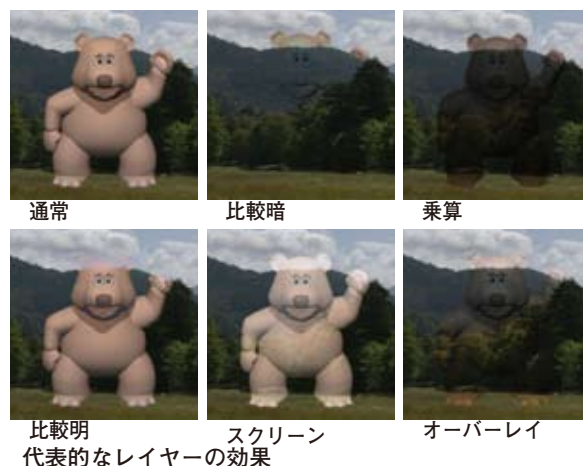
調整レイヤーの概念図  
元画像に「レベル補正」と「色相・彩度」を重ねている

### 調整レイヤーとは？

レイヤーには、画像を合成するだけでなく「補正」するための機能も搭載されている。「調整レイヤー」は「レイヤー」パレットに補正のレイヤーが作られ、補正のレイヤーをダブルクリックすればいつでも補正内容の修正が行えるという便利なものだ。

調整レイヤーは Photoshop 系の主な調整機能が可能で、またいくつかの機能を重ねて使用できる。Photoshop Elements の場合は前回学んだ「レベル補正」、「色相・彩度」の利用度は非常に高い。

また下で紹介する「レンズフィルタ」も使えるので、色温度や色調の偏り補正に効果的に使える。



比較明 スクリーン オーバーレイ  
代表的なレイヤーの効果

また下で紹介する「レンズフィルタ」も使えるので、色温度や色調の偏り補正に効果的に使える。

### \* 実例 1

5月の奥多摩撮影行での1コマ。酒蔵見学の教室は色温度が大きく異なっていたが、レンズフィルタの寒色系LBB\*を使用。さらに調整レイヤを利用することによって、後から効き具合を調節できる。

### \* 実例 2

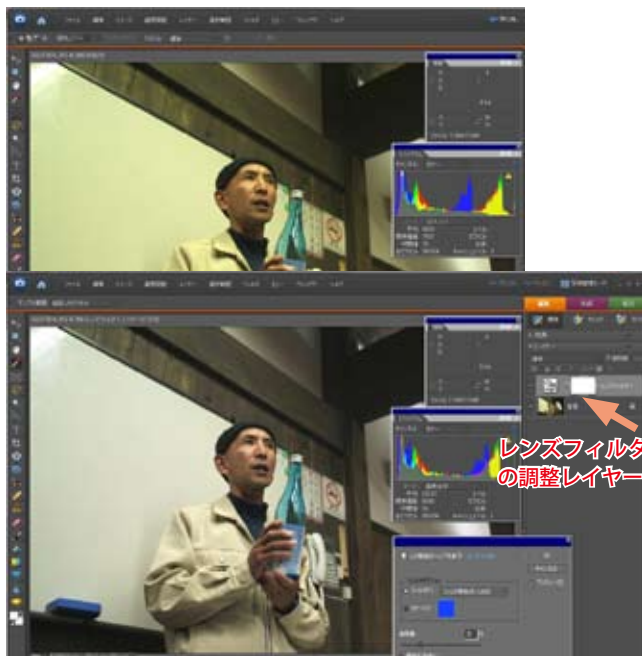
8月の軽井沢合宿でのキャベツ畑撮影での1コマ。夕光のキャベツ畑でキャベツを浮き立たせるためにやや逆光の角度で狙いたいが、既に夕陽となり高度の下がった太陽では完全にキャベツが潰れてしまう(左)。かといって露出補正による撮影(右)では空の部分が完全にとんでしまう…。

調整レイヤーのレベル補正にグラデーションマスクをかけ、色相彩度で整えると、見事に補正の“両立”をはかることが出来た。

(授業ではこの他にも調整実例が解説された)

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)



レベル補正の効果がグラデ状に反映され、逆光のキャベツと空の階調が両立できた！

## 参加者全員による“ライトニングトーク” (持ち時間5分のショートトーク)

今月もいくつかの要旨をピックアップする。

KH氏は7月に行われた大井町でのイベント報告。市民参加のごみ拾い大会だが、環境意識の高まりでスポンサーは尽き易い。一定時間に集めたごみの量、種別で点数を競うが、タバコは点数高いそうである。

IB氏は東京スカイツリーの工事作業の報告。現在4数十mだが、綿密な計画と安全管理により、着工以来けが人はゼロだそうである。

IT氏は軽井沢合宿の前に立ち寄った、小諸懐古園や合宿中に撮影した素晴らしい朝焼けの写真を見せてくれた。ST氏は“往時茫茫”と題して氏の長いキャリアからのとっておき話。今回は昭和28年から勤めたニュース映画会社での苦労と思い出。助手時代は“フレキシブル”で24コマ/1秒(現在のデジタルは60コマ/1秒)を刻むよう手回しの役目だったが、当時の花形の神宮での東京六大学野球撮影の思い出(プロ野球はまだ隆盛前)など、興味深い内容。

平野講師からはニックブラントの不思議な動物写真集の紹介。また3年間の当勉強会の講義内容を一冊の本とDVDにまとめたとの紹介があった。…等々である。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)



## Photoshop 研究講座 平野正志 講師

### 「フォトマージ (高画素への挑戦)」

昨年高木講師からも解説のあったデジタル一眼レフによるステッチング撮影だが、Photoshop のフォトマージ機能を利用しながらさらに高画素に挑戦した報告。

#### 簡略化した工作方法

ペンタプリズム部の先端にストロボの出っ張りがあるためそのままではボードに接続できなが、接写リングを利用してスペーサーとすることで、ボードに直接カメラボデーが取り付け可能になる。工作は4×5のレンズボードに接写リングを取り付けるだけという簡単なもので、費用は接写リング (中古) で3000円位のものだ。

尚、広角90ミリを使用する方法もあるが、レンズとバックボードの間隔が狭くなってしまいうので、あえて望遠系で焦点距離を長く取り動きのスムーズさを重視した。

#### 実例1 (室内撮影)

初めに室内撮影で縦方向に4枚×左右で合計8枚の画像を自動処理のフォトマージユを使って合成したが、なぜか下の部分の合成が変形されてしまい、全体に魚眼レンズのようなゆがみが生じてうまくゆかない。

下の部分、左右をそれぞれに3枚合成してみるとうまくゆきそうなのでその画像をレイヤー合成して、もう一度フォトマージで左右の画像を合成し、下の部分の一枚が像とする。小刻みなフォトマージを繰り返すことで、少しずつ合成してゆく方法が有効のようだった。

**実例2 (屋外撮影)** 次に窓から見える風景を上中下、各3枚をフォトマージで自動合成。一度にすべての画像を指定して合成してみたが、こちらは三枚三列の合計9枚の写真が違和感なく合成された。これなら簡単で手軽が良いが、絵柄によっては極端な変形がかかってしまう場合があるようだ。その場合には小さく部分合成を繰り返しながら最終的に全体を合成するようにするとよいようだ。合成による超高画素撮影の試み、動かないものに限るが4×5のあおりも使え、レンズの中心部分だけを使う利点もあるだろう。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

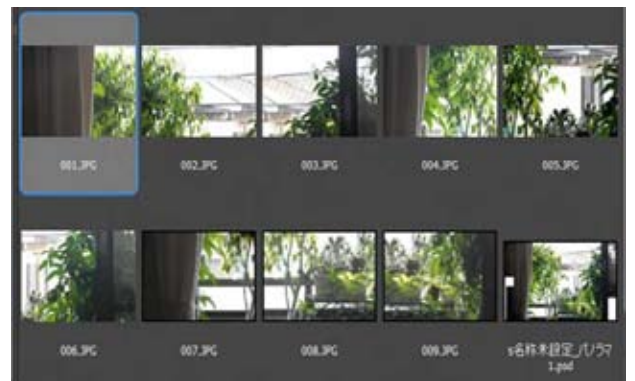
<http://www.digitable.info>



カメラを4×5本体に取り付けた外観はこんな状態



実例1 (室内撮影) 下の部分の合成が変形されてしまい、全体に魚眼レンズのようなゆがみが生じてうまくゆかないので、部分合成を繰り返した



実例2 (屋外撮影) 三枚三列の合計9枚の写真が違和感なく合成された



今月の1枚：休み時間も会友の写真を観賞